

当別町のコミュニティバス「当別ふれあいバス(通称:ふれバ)」について

〈当別町について〉

当別町は、札幌市に北隣し、豊かな自然と田園風景を有しながら都市の快適性を享受できる環境にあり、主たる産業を農業とする人口2万人弱の町です。

地理的には、南北に長く、北部が山林地域であることからその大半の住宅が南部に集中し、その集落市街地も東西に2局分化されています。

既存の公共交通は、①JR(学園都市線)が東西に横断し本町地区と北部の集落を結ぶほか、②本町地域と北部地区を結ぶバス路線と、③本町と江別市とを結ぶバス路線だけです。

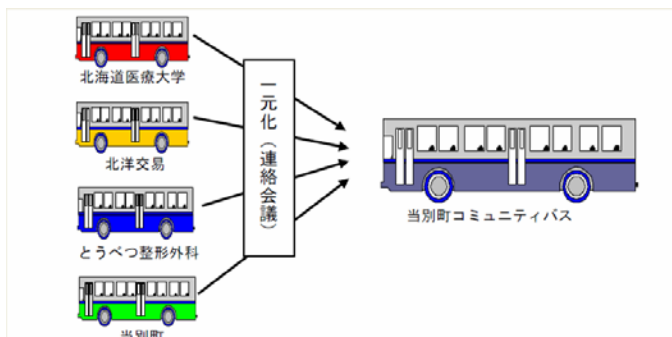


〈交通体系の調査検討～実証運行〉

平成16年、近隣の市町村との合併が決裂し、自立の道を歩むべく9つの重点施策を掲げた「当別町行政システム再構築プラン」を策定。重点施策の一つに「バス交通体系の確立」が掲げられ、「学校や病院、企業が独自の目的でバスを運行し、同じ時間帯に似たようなバスが目の前を通過するが、乗りたくても乗れない」、「誰もが利用しやすいバスの構築」を求める声に応えるため、平成17年度にバス交通体系の調査検討を実施、平成18年度から実証運行事業を実施しました。

平成17年度 調査検討

- 識者(北海道大学大学院教授)を座長に迎え、バス交通体系調査検討実施バス通信を発刊し、検討内容等を啓発したほか住民の主体的関与を促す
- 官民一体のバス実現に向け、町内の交通関係者を集め、参加事業者を募る



平成18年度 実証運行1年目

- 検討結果をもとに7路線のバス体系を構築
- 運賃1回1路線200円 定期券は一般1ヶ月1,500円 1年12,000円
- 国土交通省の公共交通活性化総合プログラムを活用した運行改善策の調査、利用促進策の模索・実施

平成19年度 実証運行2年目

- 平成18年度の活プロの結果などをもとに、7路線のバス体系を継続して実証運行実施当別町地域公共交通会議の設置
- 国土交通省の「公共交通活性化総合プログラム」、「かしこいクルマの使い方プログラム」の他、実証実験データを基に運行改善・利用促進策等の実施
 - ・1回1路線あたりの運賃(200円)は変更せず、定期券は一般1ヶ月2,500円、6ヶ月12,000円に値上げを敢行する。
 - ・市街地循環性を見直し、買い物に特化したバス路線の構築
 - ・回数券(12枚綴 2,000円)の導入など
 - ・パンフや路線図、時刻表を作成し、MM及びエコドライブの啓発

〈地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく取組〉

当別町では、これまでの検証結果や実証運行の実績を活かし、平成20年2月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律による協議会（法定協議会）を設立。法定協議会では、地域公共交通総合連携計画の策定（平成20年3月）し、その計画に基づく事業実施により、当別町の公共交通の活性化、公共交通を活用した地域の活性化、コミュニティバスを軸とした公共交通の確立を目指す（平成20年度～平成23年度）。

平成20年度には、予約制深夜バスを運行し、交通空白時間帯をカバーしながらデマンド型バス導入のための利用者の反応を探ることとしているほか、モビリティマネジメントの実施、バス案内システムの導入などを実施。当該期間内には、ノンステップバスの導入やバスを活用した物流システムの構築などを目指します。

また、これまでの実証運行データを基に、3年後の自立した本格運行を見据え、平成20年度から定期券（一般）を1ヶ月4,000円、6ヶ月16,000円に値上げを行った（運賃1回1路線あたり200円、定期券12枚綴り2,000円は変更無し）。

参考:定期券の推移(一般)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
1ヶ月	1,500	2,500	4,000
3ヶ月	4,000	6,000	10,000
6ヶ月	8,000	1,000	16,000
12ヶ月	12,000	—	—